

北の自然

北海道自然保護連合通信

No.73 2005.1.15

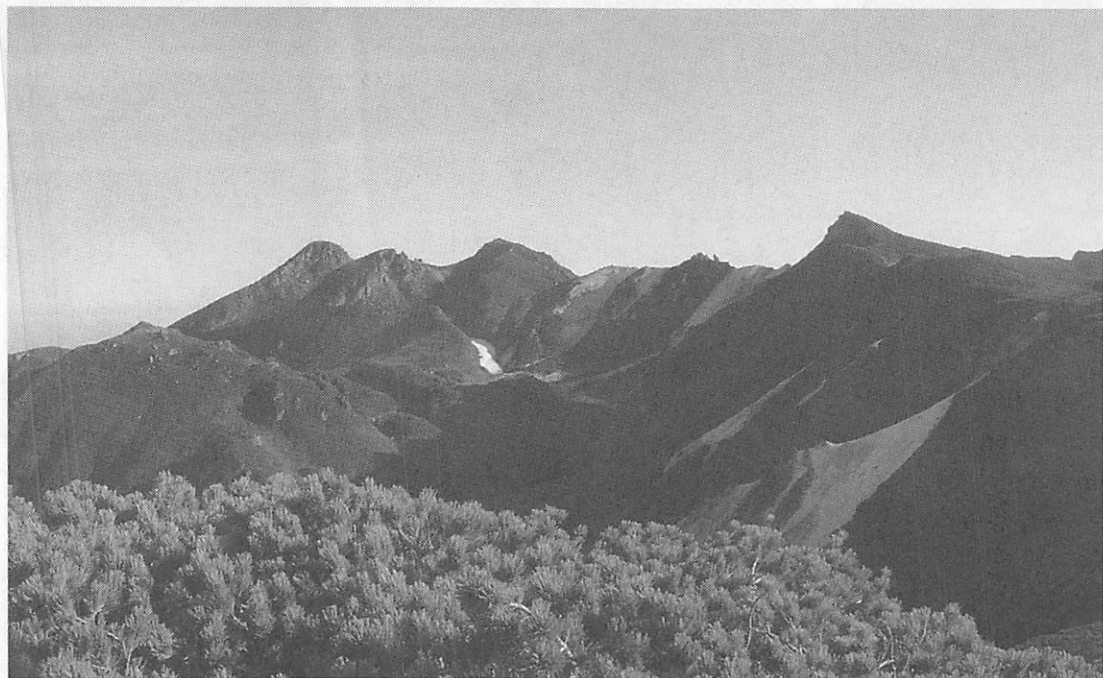


知床・羅白岳

知床の砂防ダム について 要望書を提出

当連合と北海道自然保護協会は共同で、知床の世界自然遺産登録を目指して日本政府が国際自然保護連合（IUCN）に提出した回答書が不十分として、環境省・林野庁・文化庁・北海道などに要望書を送付しました。日本政府は11月初めにIUCNへ「砂防ダムの撤去は困難。必要に応じ魚道の設置を検討する」と回答しました。

これまで、当連合は知床の世界遺産登録に関しての、意見を述べるなどの活動を行ってきませんでしたが。世界自然遺産登録後も不要な砂防ダムを「撤去しない」環境省の自然保護の姿勢に対して、下記の要望書を12月20日に提出しました。



知床・硫黄岳の山なみ

2004年12月20日

提出先

環境省大臣 小池百合子
林野庁長官 前田 直登
文化庁長官 河合 隼雄
北海道知事 高橋はるみ 様

北海道自然保護連合 代表 寺島 一男
社団法人北海道自然保護協会 会長 佐藤 謙

知床世界自然遺産候補地の保全に関する要望書

先般、知床世界自然遺産候補地の保全に関して、世界自然保護連合（IUCN）のデビッド・シェパード保護地域事業部長より、環境省に対して「推薦地の海域部分と漁業」及び「河川におけるダム建設」等についての書簡（以下「IUCNのコメント」）が出されました。この書簡に対し環境省は、林野庁・文化庁・北海道と連携の上での回答（以下「回答」）として日本の見解を伝えましたが、その内容は知床を「陸域と海域の生態系のつながりとその健全性」にあると特色づけた推薦趣旨に照らしきわめて不十分です。

現在、世界の自然環境に関する保護の潮流は、先月タイ・バンコクで開催されたIUCN世界大会の議論に象徴されるように海洋保護が最重要課題になっています。海域の保護が陸域の保護と不可分であり、とりわけ両者の生態系のつながりをどう保全するかが大きな課題となっています。その意味で知床における自然遺産の保全のあり方はきわめて重要であり、世界的にその真価が問われていると考えられます。

また、IUCNへの回答に際し、知床世界自然遺産候補地の保全に関して専門家からなる科学委員会が設置されているにもかかわらず、委員会における討議と意見を十分に反映することなく回答したこと、さらに委員会が公開の原則から意見書を速やかに公開することを求めているにもかかわらず公開していないことは、今後の保全のあり方に大きな問題を残しました。

以下にIUCNコメントで指摘されたダム問題を中心に、検討と改善の要望をまとめました。知床における環境保全のあり方は、ダム問題を含めた日本の環境保全の今後のあり方を示すだけでなく、海洋国日本の海域保全のあり方に一筋の道をつける先例になると思われれます。世界自然遺産の登録を通じてその理念生かした21世紀にふさわしい新たな枠組みをつくることを強く要望いたします。

1. IUCNのコメントが「河川本来の流れとプロセスの回復と維持」を基本に、河川工作物（ダム）に対し「将来的に撤去も含みうる」検討の視点を提供しているにもかかわらず、「回答」は「河川工作物については、住民の生命や財産の保全のため、必要な箇所に限って設置した」こと「土砂流出や山腹の崩壊を防ぐことにより森林の育成基盤を保全する機能や、土砂災害を防止する機能を果たしている」ことを主な理由に、撤去を視野に入れることなく魚道の設置で解決を図ろうとしています。

魚道は河川の生態系からすれば緊急やむを得ない場合の非常手段であり、魚道が設置されることによって基本的な問題が解決されることはありません。魚類に関する専門家の多くが旧来の砂防ダムや落差工につけられた魚道が、魚類の遡上・下降行動を含む生態に関して十分な検証が行われないうまま新たな工事が上乘せされている現実を指摘しています。現状の河川工作物に魚道を加えるこ

とによって、河川の環境を更に悪化させる可能性も含んでいます。撤去を含めた検討は本来の河川環境を回復させる上で外すことのできないプロセスです。

2. 現在、知床の推薦地には44本の河川があり、そのうち岩尾別川(13基)、ポンプタ川(7基)、ルシャ川(3基)、オショロッコ川(1基)、相泊川(2基)、モセカルベツ川(6基)、オッカバケ(2基)、チトライ川(2基)、

羅臼川(14基)の9河川に計50基の砂防ダムがついています。これらのダムの中には設置後年数が経ち、自然条件も社会的条件も変化して当初の機能を果たしていないものもあります。一例をあげるとルシャ川のあるルシャ地区は現在国立公園の特別保護地区に編入され、設置された当初に比べ土地利用が大幅に変わっています。特別保護地区にふさわしい河川環境づくりが必要です。

また近年、砂防ダムによる水質の悪化や下流における河床低下など、初期の建設時代には想定されていなかったことが次々と指摘されています。改めて科学的な見地から砂防ダムの言われるような効用とは別に、その機能について総合的な再検討が必要です。河川ごとに個別のダムごとに検討を加え、その結果を踏まえて撤去できるかできないか、その影響や見通しなどが検討され対処されるべきです。

3. 知床半島における陸域と海域の生態系のつながりは、世界遺産の推薦書が示すように絶妙なバランスの上に成り立っており、これら両域の生き物は陸域と海域の深い相互関係によって支えられています。IUCNのコメントも、世界的に希少な海鳥の生息地もヒグマの生息密度の高さもこれら両域の相互作用に依存しており、何よりもこの地域の根本的な重要性はこの相互関係にあるとしています。

「回答」は、現在、サケ・マスが遡上する可能性のある河川について、「サケ・マスの遡上と産卵の有無等の状況を把握する補完的な調査」を行っており、この調査の結果を踏まえサケ・マスの河川工作物による影響評価を実施するとしています。そのこと自体は否定されるべきことではありませんが、そのことをもって河川の生態系に対する工作物の影響を押し量ることはできません。サケ・マスを含むすべての川の生き物にとって河川工作物がどのような存在になっているかその検討が必要です。

IUCNのコメントが、「人間の福祉や生活に深刻な危険を及ぼさない場所」における河川工作物の撤去を示唆していることは、陸域と海域の生態系のつながりが従来の手法では「長期的な持続可能性の確保」ができないことを心配しているからです。

4. IUCNのコメントがまた、推薦地の海洋部分が沿岸から1キロメートルしかなく、国立公園区域の「普通地域」に区分されており、これでは緩衝地帯としての役割しかないとして長期的に「代表的な海洋保護区」の設定を提案しています。「回答」は漁業活動がすでに資源管理型漁業に努めていること、放流事業等の保護増殖活動をしていることなどを挙げ、今後5年から10年を目処に安定的な漁業の営みと海洋生物や海洋生態系の保全を両立させる「多様型統合的の海域管理計画」を策定するとしています。

しかしながら近年における海洋生態系を含めた海洋生物の変化は著しいものがあり、先のIUCNの世界大会では公海上での漁業規制すら提案されています。専門家の報告によれば日本では害獣視されるトドも、オホーツク海周辺に生息する個体数は1960年の約5万頭から1980年後半には約1.3万頭へ、そして現在の約5000頭へと大激減し、国際的にはレッドデータ種(絶滅危惧Ⅱ類)になっている現状があります。

そのために餌となるスケトウダラなどの漁獲規制を即行うのがよいかどうかは科学的な検討の余地があるとして、海洋生態系の保全にもっと積極的に取り組まなければならないことは明らかです。海洋生態系の保全が海洋生物の保護につながり、ひいては持続可能な漁業の確立につながることを考えると、「多様型統合的の海域管理計画」をさらに一歩推し進めた新たな海洋保護区の検討は重要です。

5. このように推薦地における河川とその周辺海域における保全のあり方一つみても、問題は多岐にわたり科学的な知見や手法、関係する多くの住民・漁民の合意、自治体を含む関係行政機関の協同等が必要です。科学委員会には現地の事情に詳しい第一線の研究者が多数参加しており、その機能を十分生かして候補地全域の健全な生態系の維持のため科学的な検討が絶えず加えられるような体制づくりをするとともに、さらに上述した関係者等が加わって知床の自然遺産が総合的に適切に管理運営できる常設機関を設けることが必要です。

併せて情報の公開と住民の参加を積極的に行い、知床の世界遺産の価値が地元住民をはじめ広く多くの人々に深く理解され、それを保全する日常的な活動が活発になるしくみづくりも必要です。いま、ここにいたって従来の枠組みの中で知床の世界遺産を処理するのではなく、世界遺産の理念にふさわしいもう一段高い枠組みからの保全が必要です。



知床・サシルイ岳

「真駒内・芸術の森・緑の回廊基金」

ナショナルトラスト

の活動

小林保則



森を破壊して建設中のゴルフ練習場（1997年）

「緑豊かな都市」を標榜する札幌市は、その「豊かな緑」故に、緑に対する無関心と、開発に対する寛大さを兼ね備えている。札幌の緑は観光資源又は札幌らしさの象徴として存在してきた。私達の生活する土地に隣接する札幌の森は、いわゆる、生活の場として利用される「里山」ではなく、「都市近郊林」として、人々の生活や、生態系とはかけ離れ、単に都市の景観としての役割を担ってきた。それは何を意味するだろうか。自由に手を加え、何か目に映える

物、便利な物（と言われる物）を創造していく。創造は時に自然を破壊し、便利さは時に人の情緒をうばい、無機的な空間を作り出す。

人々は、会う度ごとに、「この辺も変わりましたね」とか「この辺も便利になりましたね」と言いながら、そのことに気がつこうとしなかった。私たちは「カッコーの声が今年も聞こえたね」とか「真駒内川に今年もサクラマスが帰ってきたね」とかそんな会話が、自然に交わされ、私達の生活と密着した身近な森が少しずつでも守られるようにと考えている。

「真駒内・芸術の森・緑の回廊基金」が、いま守ろうとしている森は、札幌市南区真駒内の住宅地に接した地点から、札幌の住宅地としては最南端となる特殊公園札幌芸術の森付近まで、真駒内川に沿って続く長さ9km、幅1km以上に広がる、自然豊かな森である。

森には、オコジョ、エゾモモンガ、ニホンザリガニなどの貴重な野生生物や、カワセミの営巣、クマゲラの飛来、トケンラン、サルメンエビネ、ハクウンボク、サビタ、など多数の植物を見ることが出来る。しかしながら、1970年前後の土地ブームで、現状有姿分譲され、本州方

面の不在地主が多い地区であり、現在は、土砂採掘の場所として業者の開発計画がひしめき合う地区でもある。この緑の回廊の東側には、可燃ゴミの焼却処理施設「駒岡清掃工場」があるが、この採掘現場で取れた「土」は主にこういった施設の焼却灰の埋め立て処分に使われるということである。

こんな森の回廊の一部、真駒内の住宅地に隣接している市街化調整区域の森林2.84ヘクタールに、1996年7月「ゴルフ練習場」建設計画が持ち上がった。隣接の町内会や付近住民の「ゴルフ場建設反対」要望を受けて、札幌市は森林を保全するために民有地を買い取るという異例の交渉をゴルフ練習場計画業者と行った。しかし、業者側の建設の意志は固く、交渉は決裂、市は翌年1月買い取りを断念した。その後も、粘り強い反対運動を継続したが、住民にも、行政にも確かな守るべき理念がありながら、ゴルフ練習場の開発は粛々と行われ、1997年12月営業が始まった。

そんな運動の中から1997年5月、行政だけに頼らずに、市民の手でこの森を守ろうと発足したのが「真駒内・芸術の森・緑の回廊基金」である。奈良県平群町のゴルフ場開発反対の住民運動や狭山丘陵ナショナルトラスト「トトロのふるさと基金」に学びながら、市民の手で森を買い取り、市民の財産として残すナショナルトラスト運動に取り組むことにした。

まず、この運動を多くの人に知ってもらおうと、1998年3月同じ真駒内に住む植物写真家梅沢さんのご協力の下、梅沢さんがこの森で撮りためた身近な植物の写真30枚をまとめた「ポストカード写真集」を出版した。また、守りたい森の姿を、森の息づかいを多くの人に知ってもらおうと、季節ごとに「緑の回廊観察会」を開いたり、回廊の森に隣接する、北海道の保健保安林周辺の「クリーン・クリン・ウォーク」を行っている。



札幌市より河川敷を借りてみんなの森再生プラン



子供達も参加しての植林活動

また、景観としての都市近郊林ではなく、共に生きる生物たちの匂いを感じ、そこに生かされる自分を感じることに出来る森として、この回廊が如何に必要であるかということを知ってもらうために、毎年フォーラムを開催している。毎回、基金を応援してくれる先生方から、身近な自然の大切さのお話を頂き、多くの人々の共感を得ながら、その後の運動の足掛かりとしている。とはいえ、当基金はその助走期間も既に終えながら、ナショナルトラスト運動の実践は、まだ少ししか進んでいない。今年こそ、NPO法人格を取得し、土地の取得に向けて果敢に活動を進めていきたいと思っている。

この緑の回廊を残す為に、私達はたくさんの知恵と力を求めています。

大平山の 貴重な高山植物を守ろう

樋口 みな子



大平山のアツモリ草

大平山登山口近くまで、いよいよトンネルが開通します。6月19日(土)20日(日)第2回大平山現地フォーラムが島牧村で開催されました。

高山植物盗掘防止ネットワーク委員会の加盟団体と、関係行政機関（環境省、森林管理所、北海道、後志支庁、島牧村）が集まり大平山の自然を守るためにはどうしたらいいのか話し合われました。参加は28人。

19日、小野有五委員長から「今回は具体的な保護活動について深めた話し合いを」との挨拶がありました。大平山高山植物保護対策協議会から、去年は6回のパトロールを行ったこと、現地調査や、高山植物への配慮ある登山を呼びかける看板の設置、パンフの配布などの広報活動をしたこと、今年は、第2ピークの落石の危険から登山者の安全を確保するためと、オオヒラウスユキソウなどの貴重な固有種を保護するためにガレ場を避けた登山道に付け替えたいこと、パトロールを9回に増やすことなどの説明がありました。

20日に大平山高山植物保護対策協議会



ウスユキソウ（薄雪草）

の官の立場の人たちと、各地で、山の自然保護に努力している人たちとの合同で調査登山をしました。梅沢俊さん、佐藤謙先生も、高山植物を守るためには登山道の付け替えが必要であると、ポイントごとに具体的な変更箇所を確認しました。雨が心配でしたが、何とか小雨程度で登ることが出来ました。道路工事中のため、登山口までの林道、2kmを歩きます。登山口に、高山植物パトロールの幟、山トイレの幟を立てて、出発です。

ブナに囲まれた樹林帯が気持ちいい。樹林が切れたところから、九十九折の急登にあえぎながら登りました。蒸し暑く汗が、水のように流れます。なんと、わたしは、最初の休憩地点でストックを忘れたのです。いつもあるものがないというのは、不安なものです。タニウツギのピンク、サンカヨウの清楚なたたずまいに励まされました。810mの第1ピークまできたら、体も慣れてきました。第2ピークの3番目の岩場からの急登には、オオヒラウスユキソウが、足元にあり、踏みつけによる被害が大きいこと

が分かりました。ガレ場で、落石も怖いのです。この日も先行していたどなたかが、岩を踏み外して落石、ものすごい勢いで、大きな石が転がる様に、背筋が寒くなりました。本州からの登山者もきているようですし、高山植物帯の迂回が必要と思いました。お花が全部見れないわけではありません。お花に付加を加えない登り方を考えようというものです。第2ピーク付近のお花が素晴らしかったです。昨年より1週間遅い登山だったからでしょうか？お花の量、種類の多いのに感激でした。佐藤謙先生がいらっしやるので、目立たない花にも目を向けることが出来ました。

ハクサンイチゲ、ミツモリミミナグサ、ミヤマオダマキ、ミヤマハンショウヅルタニウツギ、カノコソウ、サンカヨウ、タカネグンバイ、ムラサキモメンヅル、チシマフウロ、タカネグンナイフウロ、アサギリソウ、ミヤマアズマギク、

エゾゼンテイカ、ハクサンチドリ、テガタチドリ、チャセンシダ、ミヤマキンボウゲ、オオヒラタンポポ、シラネアオイ、イワヨモギ、ヤマドリトラノオなど固有種を含むたくさんの花が咲き乱れていました。

梅沢俊さんは、滅多に見られない花を発見するのが上手。この日も、とても意外な場所で、珍しい花を素早く撮影していました。オオヒラウスユキソウはまだ咲いていませんでしたが、ムラサキモメンヅルの群落が素敵でした。

現地では佐藤謙先生を中心に第2ピークの急斜面のガレ場を避ける新ルートの調査が行われ、草地をトラバースして第2ピークの急斜面の先のコルに繋ぐコースの設定が行われました。

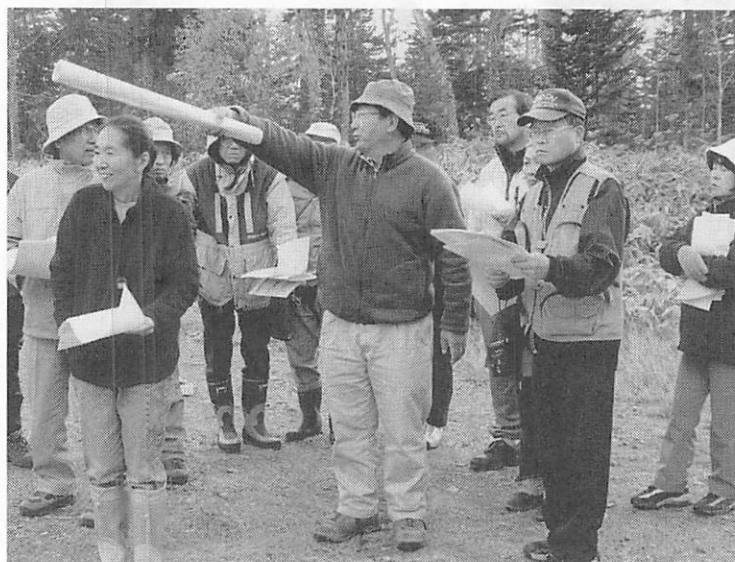
梅沢さんは、夏山ガイドにあえて大平山ははずしてきましたが、インターネットで、多くの登山者に知られていることから、高山植物に配慮した登り方、こんな行為をしてはいけないという注意事項も含めて紹介したいと話されました。改訂版の登山ガイド、楽しみです。

第3回交流会

北海道自然保護連合の交流会 十勝地域で開催

—新得ラリー林道・大規模林道足寄・阿寒区間を視察—

報告 十勝自然保護協会 佐藤 与志松



十勝ラリー、現地調査

連合の地域交流会は、昨年、旭川の会の主管により置戸で行われた。今年は、十勝の会の主管で行われ、10月16日ラリー林道、17日大規模林道を見ることにした。参加は、1日目・21名、2日目・12名。

10月16日、寒いがよく晴れた日で十勝の紅葉が今が盛りである。午後2時トムラ登山学校前集合。10日前にWRCの林道ラリーが猛禽類の問題があったにもかかわらず強行された新得町

の国有林の二つの林道（岩松ダム付近から入るパンケニコロ林道と循環したパンケニコロ林道）を視察した。溪流沿いで車の交差がやっという狭い林道を4台の車が行く。早くても時速40kmというところ、ラリーでは100kmも出して90台が突っ走ったのだからあきれられる。倒されたカーブミラーはすでに修復しており、深掘れもブルドーザーで整地され見た目はきれいであった。当会理事の松田さんはナキウサギふあんくらぶ会員でもあるが、途中、開発局の開示文から判明したエゾナキウサギ生息地について説明する。約25kmほどで標高900mの奥十勝峠手前の曲折地点でナキウサギふあんくらぶの高倉

さんから説明を受ける。彼は、地図からは微妙なところだが、この地点の85mが大雪山国立公園に掛かっていることを発見して、何度も環境省や森林管理署の事務所と掛け合い、否定する係官に結局認めさせたのである。パンケからパンケの林道にわたるきわめて狭い連絡路がある。この道は廃道かと思われるほどの悪路だったが、ラリー主催者が砂利を入れ均し、排水のため沢山の溝をつけてすっかり整備してしまっ



ラリー実施後、材道に残置されたラリー者の破損部品
タイヤには重金属が含まれている



大規模林道阿寒側工事現場（最終地点）

た。ラリー目的に林道整備を森林管理署が認めたこと自体が大問題である。そして、谷側に土砂を流出させたままにしていることも問題である。旭川の野田さんがクマガラの古い食痕を見つけた。パンケ林道は17km徹底して溪流沿いで橋が多い。大径木はないが若い広葉樹の多い紅葉に映えた静かな森林であった（下流部にはカラマツの造林もあるが）。再び松田さんの説明でナキウサギ生息地を見る。一つはふあんくらぶが発見したものである。ラリーの埃をかぶったのでナキウサギは後退しただろうという。彼らは、90デシベルもの騒音を立てる90台もの暴

走に唾然としたことだろう。今夜の宿泊は、本別の静山公園内の研修所。自炊で皆さんの料理の腕前は確かなものであった。豚汁に酒、話ははずんだ。明日は旭川の関口さんが合流するはずだ。

17日、快晴。大規模林道置戸・阿寒線の足寄・阿寒区間を視察する。まず足寄町上螺湾。夏見たときよりもやや工事が進んでいて小尾根にかけ上がって見ると、茂足寄側から延びた工事先端部分が見えるので驚いた。ここが貫通するのは時間の問題かと思う。請負企業は十勝3社であった。オンネトー湖畔は観光客で一杯だ。おにぎりを頬ばったあと、こちらあたりは紅葉のすばらしいところだが、今年はやや落ちるなあと思いつつ、まよりも街道をめざす、飽別発電所から飽別川沿いに計画林道がある。途中、桂の見事な大径木、15本ほどが伐採されており及川さんによると刻印がないので怪しいという。幅広い伐採地がかなり続く。6km地点ではじめて着工跡があったけれども、その先は手がついていない。じぐざぐにかけ上がると例のぼろぼろくずれる法面が肌をみせる。標高800m稜線に火山観測所がある。雌阿寒の山並みが樹海を隔てて目前に迫り景観はすばらしい。上流部は計画ルートが不明で、この稜線はトンネルで突破するのだろうか（緑資源機構に請求中）。白水沢林道を

駆け下り帰路につく。時間切れで阿寒湖畔で解散した。

今回は十勝の森林がどういう状況におかれているかを見てもらった。先頃「林とこころ」という本が出版されたという新聞記事を見た。森林は造林機能とともに保水機能が重要である。さらに、人のこころを癒してくれる場でもある。林道ラリーや大規模林道はそのいずれにも害をしか与えない愚かな行為だと思う。

参加者21名（札幌2団体4名、旭川5名、十勝7名、その他5名）

編集後記

2005年・新春・賛助会員の皆様、加盟団体会員の皆様、あけましておめでとうございます。本年も皆様のご多幸をご祈念申し上げます。さて、北海道自然保護連合は30年ほど前に大雪山縦貫道路の建設に反対して誕生しています。その後、日高中央横断道路計画、知床国立公園内国有林伐採問題、士幌高原道路建設、そして再び日高横断道路建設、と北海道の貴重な自然環境保全活動に取り組んできました。と云っても当連合の活動方針を提起するのは、加盟している団体の皆様で、活動をするのも加盟団体なのですが。一昨年に日高横断道路工事を凍結すると北海道が発表し、次いで国の工事部分の中止が決定しました。それぞれの活動が10年から20年と云う長期間の活動でした。

そして、今年度からはこれまでも継続して活動してきた大規模林道工事による自然環境破壊に反対する活動の強化を決定し、加盟内外の団体と取り組んできました。知床の世界自然遺産登録に関しては、環境省が主導の国際的な自然環境保全の常識範囲内の政策を行うものとの期待をしていたものです。ところがどうでしょう。まるで国土交通省の事業計画みたいな「既存の砂防ダムの撤去は困難、必要に応じて魚道の設置を検討」と世界自然保護連合に最終回答したのです。

11月初めの環境省の回答に対して、当連合はこの回答を批判し要望をまとめました。

北の自然 No.73

2005年1月15日発行

発行 北海道自然保護連合

事務局 札幌市南区川沿10条3丁目12-2

小山 健二様方

TEL・FAX 011-572-2069

発行人 寺島 一男

事務局 札幌市南区川沿10条3丁目12-2

小山 健二様方

TEL・FAX 011-572-2069

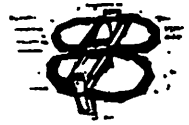
発行人 寺島 一男

賛助会費 年間 3,000円

郵便振替 02710-5-4071

印刷 (株)北海道機関紙印刷所

表紙写真 高野 啓子氏 (札幌ピオレ山の会会員)



(全日本登山とスキー用品専門店協会会員)

登山とアウトドア専門店

秀岳荘

(本店) 〒001-0012 札幌市北区北12条西3丁目

TEL011(726)1235

営業時間 AM10:00~PM7:00 ●月曜定休

(白石店) 〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2

TEL011(860)1111

営業時間 AM10:30~PM7:30 ●水曜定休

(旭川店) 〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目

TEL0166(61)1930

営業時間 AM10:00~PM7:00 ●月曜定休

<http://www.shugakuso.co.jp>

